

平成 26 年度熊本支部総会のご報告

平成 26 年 9 月 21 日 久留米大学附設高等学校同窓会熊本支部総会、講演会および新入生歓迎会を、川崎博先輩(16 回生)が社長を務めるホテル日航熊本にて開催いたしました。

今回は福岡支部長の松雪恵津男先輩(22 回生)も出席され、ご挨拶をいただきました。

社会人は 13 回生から 46 回生まで 30 名、学生は 53 回生から 62 回生まで 23 名(含む：新入生 8 名、53 回生-1 名、60 回生-1 名、61 回生-4 名、62 回生-2 名)が出席いたしました。

総会では、片渕秀隆副支部長(22 回生)の挨拶の後、活動報告、活動計画、理事・評議委員会の報告、会計報告、監査報告、会則の変更および 26 年度役員について留任・信任の承認をいただきました。尚、新熊本支部長に今回、寺島隆則先輩(14 回生)が満場一致で選出されたことも合わせて報告いたします。

今回熊本支部の新たな取り組みとして、同窓会会員の中から附設 OB らしい豊かかつユニークな経験をされ、また幅広い知見も持たれた方に、限られた時間ではありましたが、講演していただくことになりました。

今年度は、水俣市久木野ふるさとセンター“愛林館”館長で、熊本保健科学大学および熊本大学非常勤講師の沢畑亨先輩(28 回生)に「上流社会の 20 年 森と棚田のめぐみ考」というテーマで講演いただきました。

東京大学農学部・大学院卒業後、大手百貨店勤務やコンサルタントなど経て、平成 6 年に水俣市の公募にて 25 人の中から沢畑先輩が同館館長として選ばれ、現在まで 20 年超館長を務められています。

愛林館は水俣川の源流部の久木野地域にあり、九州新幹線新水俣駅から車で 30 分の山村にある「村おこし施設」です。講演の中では、ご自身のこれまでのフィールドワークと照らし合わせ、現代社会の行き過ぎた近代化に警鐘を鳴らしつつ、100 ヘクタールの棚田が広がる里山での暮らしや農作業、またグリーンツーリズムや、そばうち体験など様々な食育プログラム、田植え前の棚田に 2000 本の竹のたいまつを立てて火で飾る「棚田のあかり」イベントといった愛林館館長としての活動を、しばしばユーモアを交えながらお話いただきました。

館長就任から 20 年超にわたり水俣の山村、いわば「上流社会」で暮らす沢畑先輩のお話は、棚田のめぐみに対する理解者を増やしたいという寡欲な目標と、その一方でイノシシや鹿といった鳥獣対策や草刈り作業など日々追われ続ける里山の現実というものにもバランス良く触れられ、その上深く考察されていたからこそ、我々の多くが都市部、つまり「下流社会」で育ち暮らしている者として、余計に傾聴に値するものだと感じました。

今回は、総会当日に誘われて参加していただいた方、お祭り(藤崎八幡宮秋季例大祭)を抜けて懇親会に駆けつけて来られた方、また附設を中退後、佐賀市内の県立高校を経

て熊本大医学部に入学した新入生も参加してくれたことは、今後の熊本支部の発展の可能性を大いに予感させるものだったかもしれません。

添付にて、支部総会、講演会、新入生歓迎会(懇親会)および2次会の模様の写真を掲載しております。参加された会員の皆様の尽きない笑顔(とお酒+ソフトドリンク)にて、今年度の支部総会も盛会になったことを感じいただければ幸甚です。

文責 佐枝真次(43 回生)

出席者(敬称略、回生)

(社会人)

小林 清市(13) 寺嶋 隆則(14) 川崎 博(16) 砥上 幸一郎(17) 上原 凡由(21) 片渕 秀隆(22) 松雪 恵津男(22) 城 隆一郎(22) 中川 弘彰(25) 江藤 正俊(27) 増田 隆二(27) 高群 博之(27) 村上 稔(27) 沢畑 亨(28) 谷口 純一(29) 柳 文治(29) 江頭 有朋(30) 一口 修(31) 中村 英夫(31) 坂田 敬(32) 石原 光二郎(33) 吉良 朋広(33) 村上 尚彌(33) 平井 信孝(33) 川野 尚(34) 岡部 和利(34) 柴垣 正仁(37) 市原 敦史(39) 佐枝 真次(43) 内村 幸平(46) 計 30 名

(学生)

富田 裕貴(53) 野村 知礼(55) 鷺見 仁志(57) 山口 晃世(57) 稲田 泰亮(57) 永芳 友(57) 原 佑碩(57) 日高 美和(57) 山村 修司(57) 眞名子 聖史(57) 執行 ひろな(58) 的場 啓五(58) 松永 光平(60) 木村 太一(60) 守口 文花(60) 園田 慎一郎(60) 奥野 佑樹(61) 掛地 由貴人(61) 山村 稔朗(61) 松崎 恵里奈(61) 徳永 成晃(61) 中村 優里(62) 山本 圭亮(62) 計 23 名